

毎週日曜発行 2024 11/10

# こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうのテーマ

漁業が盛んな宮城県気仙沼市で、古い漁網などを回収し、洋服の生地など新たな価値を持つ製品に生き返らせる会社があります。国連の持続可能な開発目標(SDGs)の14番目「海の豊かさを



## 地球のためにできること

### 役目終えた漁具に新しい価値

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ



漁網から作った布を手にする加藤さん

守ろう」につながる取り組みを紹介するよ。  
 気仙沼市のamu(アム)は使われなくなった漁網を全国の漁業者から買い取り、化学的な処理



# 服やバッグなどの材料に

代表取締役の加藤広大さん(27)は大学時代に



を経た高品質のナイロン素材にして販売します。ブランド「amuca」(アムカ)としてナイロンの糸や布を企業に売り込み、洋服やバッグなどの材料に使ってもらいます。



使わなくなった漁具を再資源化して作った製品のサンプル

世界の海洋プラスチック

今年8月、気仙沼の漁業者から引き取った漁網を再資源化した素材の販売を始めました。環境に配慮した地元ゆかりの素材に宮城県内外の企業に関心を持ち、ファッションアイテムを作る話が

進んでいるそうです。と喜ばれるそうです。「廃棄物を減らし、新しい価値を届けるビジネス。漁港ごとにテキストイルをデザインするなど、各地の漁師の思いも一緒に伝えたい」と加藤さんは話します。加藤さんの夢の一つは事業を海外に展開すること。漁業の発展を後押しし、世界の海洋プラスチックごみを減らせるとい

気仙沼市であったまちづくりのワークショップに参加したのをきっかけに首都圏から移り住み2023年、「漁業のまちや漁師の魅力を伝えるビジネスをしたい」と会社を立ち上げました。今年8月、気仙沼の漁業者から引き取った漁網を再資源化した素材の販売を始めました。環境に配慮した地元ゆかりの素材に宮城県内外の企業に関心を持ち、ファッションアイテムを作る話が

クごみのうち、海に捨てられた漁網は「ゴーストギア」と呼ばれ、毎年50万〜100万トン発生すると言われます。船のスクリュールに絡まり航行に支障が出る、ウミガメなどの希少な海洋生物が誤って食べてしまうといった被害があります。使えなくなった漁具はたいてい、産業廃棄物としてお金をかけて処分されます。加藤さんは全国の漁港を訪れ、漁業関係者から「これまで捨てていたものが生かされる」と喜ばれるそうです。

### 今週の注目ニュース

◇10日(日) トイレの日  
 1986年のこの日、「いい(11)トイレ(10)」の語呂合せで日本トイレ協会が制定しました。協会は災害時のトイレの在り方や、誰もが安心して使える環境について、研究や普及をしています。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 備えのコンパス